

私たちがあなたへ 映画は未来へのメッセージ

三人展

平和・人権
山本洋子

フェミニズム
山上千恵子

セクシュアリティ
浜野佐知

2024年 2月11日(日)、12日(月・休)
会場/とよなか男女共同参画推進センター
すてっぷホール

チケット(当日券のみ、入替制)
各プログラム 一般 1,500円 学生 1,000円
シンポジウム・交流会 参加費無料

定員 154名

2月11日(日)

11:00 開場
11:20~13:30 上映&監督トーク

矢臼別物語 北の大地からのメッセージ

制作/「矢臼別物語」制作支援の会
独立名画保存会
監督/山本洋子 (88分/2021年)



海道根室原野の一角、矢臼別にある陸上自衛隊矢臼別演習場には、二か所の民有地があり、人々が普通に暮らし、全国から人々がやってきては、交流を深める。

何故、そんなことが出来るのか？
ここには、憲法にある権利だと買収を拒否し、住み続けた2軒の農家と支え続けた地元の人々、全国の人々の連帯がある。この地で60年以上にわたる厳しいけれど、深く、楽しい日々とは？

●監督コメント

初めて、北海道矢臼別の地を訪れてから、40数年が経つ。撮影をはじめ6年。自衛隊演習場反対という、戦争か平和かという究極の問題と向き合いながら、ここには、米海兵隊、自衛隊の監視を続ける厳しい抗議の風、歌とおどり、文化を楽しむ風、誰もを受け入れ抱擁するたおやかな風がそよいでいる。この地にはどうしてこんな風が吹いているのか？平和を希求しなければいけない今、この地から、たくさんのヒントをつかんでほしい。

2月11日(日)

14:30 開場
14:50~16:50 上映&監督トーク

山川菊栄の思想と活動 姉妹よ、まずく疑うことを習え

企画/山川菊栄記念会
制作/ワーク・イン(女たちの歴史プロジェクト)
構成・監督/山上千恵子 (76分/2011年)



100年ほど前、女性が男達によって作られた法や制度に抑圧される時代に「なぜ女は生きにくいのか？」を原点に女性の人権のために闘い続けた山川菊栄の思想と活動の軌跡を菊栄とともに歩んだ女性たち、研究者、家族たちのインタビューで辿り、今を生きる私たちにつなぐドキュメンタリー。菊栄は今も呼び掛ける、「私達はいつ自身の魂を形成する権利を男たちの手に委ねたのか…私たちの若き姉妹よ、まずく疑うことを習え」と。

●監督コメント

なぜ女性は生きづらいのか…この問いから始まった山川菊栄の女性解放史を今につなぐために。



2月12日(月・休)

10:00 開場
10:20~13:00 上映&監督トーク

雪子さんの足音

制作/株式会社旦々舎
助成/文化庁文化芸術振興費補助金
(映画創造活動支援事業)
協力/静岡市
監督/浜野佐知 (112分/2019年)

地方都市に出張してきた公務員の湯佐薫は、20年前に下宿した月光荘の大家、川島雪子が熱中症で孤独死したことを知る。大学3年の夏、大家の雪子さんと間借り人の小野田さんと、二人の女性のあまりに過剰な好意と親切に窒息しそうになった日々が蘇る。

彼女たちの内奥に秘めた欲望とエネルギーに触れ、底知れない恐怖を覚えて逃げ出してしまった。だけど、自分は人生の大事なものを月光荘に置いてきたのではないだろうか？



●監督コメント

「私、とんでもないパーソンが演りたいの」吉行和子さんから届いた一通のメールから『雪子さんの足音』は始まった。吉行さんの望むとんでもないパーソンとは、今まで「老女」と一括りにされていたお婆さん像を打ち壊すことではないのか？

「欲望を持つ老女」

何歳になっても枯れることのない女のエロス。今、この社会をひっくり返す、新しい老女像。老若男女の垣根を越えて、観ていただければうれしいです。